



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

小学校家庭科における衣生活文化に関する教材冊子の考案

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-15 キーワード (Ja): 小学校の家庭科, 生活文化の継承・創造, 衣生活, 教材 キーワード (En): 作成者: 坂井, 郁心, 夫馬, 佳代子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/79284

小学校家庭科における衣生活文化に関する教材冊子の考案

Design of a teaching material booklet on clothing culture in elementary school home economics

夫馬佳代子・坂井郁心

KAYOKO FUMA / IKUMI SAKAI

要旨

本研究は、小学校家庭科における生活文化に関する内容の充実を目的に、教材冊子の作成と活用の提案及びその教育的効果について検討を試みたものである。本報告では、考案した教材用冊子の内容とそれを活用した授業実践結果について報告する。考案した冊子の活用結果及び教育的効用について別稿で述べる。

本報告で考案した冊子は、小学校家庭科「B衣食住の生活」において、グローバル化に対応して日本の生活文化の大切さに気付くことができるようにすることを目的に、新学習指導要領では「季節に合わせた着方や住まい方など、日本の伝統的な生活について扱うこと」とされるが、衣生活に関しては伝統的な衣服である浴衣の着用体験を入口として和服全体に興味・関心を持てることをねらいとした。

本報告の補助教材冊子を活用する意図は、小学校の家庭科における主体的な学びの支援と小・中・高の内容の系統性、特に小学校家庭科から中学校の技術・家庭の内容への連携を目的としたものである。

キーワード：小学校の家庭科、生活文化の継承・創造、衣生活、教材

1. はじめに

小学校の家庭科は、2019年告示の新学習指導要領において、小学校家庭科および中学校家庭科の目標では、教科で育成を目指す資質・能力に係る三つの柱が示され、家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を示す「生活の営みに係る見方・考え方」において、「協力・協働」「健康・快適・安全」「持続可能な社会の構築」とともに「生活文化の継承・創造」があげられている。¹⁾ 小学校の家庭科における「生活文化の継承・創造」については「生活文化の大切さに気付くこと」を視点として扱うことにされている。

これに対応して、小学校家庭科「B衣食住の生活」の内容では、日本の生活文化の大切さに気付くことができるようにすることを目的に、食生活では「和食の基本となるだし」を扱うことが示され、衣生活及び住生活では「季節に合わせた着方や住まい方など、日本の伝統的な生活について扱うこと」が示される。しかし、衣生活に関する伝統的な文化については具体的には示されない。衣服に関し、日本の伝統的な衣生活について触れることができる場面とし、衣服の着用と手入れに関し「A衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること」において、「夏の涼しい着方と関連付けて日本の伝統的な衣服であるゆかたに触れることも考えられる」²⁾ とされる。そこで本研究では、夏の行事において身近に着用姿を目にすることが多い浴衣の着用を入口とし、教材化に取り組んだ。

日本の衣生活文化については、中学校の「技術・家庭」家庭科編では、既に各教科書に日本の伝統的な衣生活として「平面構成と立体構成」の比較が掲載されるが、小学校の衣生活との連携は見られない。

そこで本研究では、小中高等学校の内容の系統化や発展を意識し、小学校段階で浴衣の着用体験をもとに和服への興味・関心を育て中学校への教材に発展することを意図した教材冊子を考案したので報告する。

2. 研究方法及び分析方法

(1) 教材冊子の作成

夏の行事に着用される浴衣をもとに、洋服との形態の違い、着方のルール、たたみ方のルールなどを扱い、何故このような特徴が見られるのかを、浴衣の着装体験を通して考えられる形式の冊子を考案した。また、和服に関するクイズをもとに、冊子から答えを探すなど、基礎的な内容を掲載しながらも多様な学びに活用できる構成を考案した。

(2) 授業実践における冊子の活用

本報告で提案する冊子を用いた授業実践を実施する。考案した冊子の活用場面・活用方法等について比較検討し、効果的な教材の活用方法について考察する。

本報告では、考案した冊子の内容の提案に重点を置き、1つの授業実践事例をあげる。

(3) 教育的効用の検証と冊子内容の修正

授業実践における学習プリントの分析及び授業内における活動の分析をもとに、冊子における活用頁や活用方法について授業場面ごとに分析を試みる。この結果については別稿で示す。本稿では授業観察記録をもとにした冊子の活用状況と学習プリントをもとに冊子の修正、改良についても述べる。

3. 結果及び考察

(1) 小学校家庭科における生活文化に関する教材冊子の提案

1) 生活経験の視野を広げる

小学生は浴衣などに触れる機会は少ない為、授業における浴衣の着装体験と冊子の情報で視野を広げる。

2) 主体的な学習場面での活用

グループ学習等主体的な学び場面での支援教材として、冊子からの知識や情報を活用して考えを深める。

3) 中学校の技術・家庭への連携

小学校で冊子を活用し日本の衣生活文化に興味・関心を持ち、中学校で学ぶ日本の衣文化や平面構成に関する内容に連携させ発展させる。衣生活文化に関しても小中高等学校の系統性のある学びを提案する。

(2) 教材用小冊子『和服マスターになろう』頁21～31の内容 (資料1)

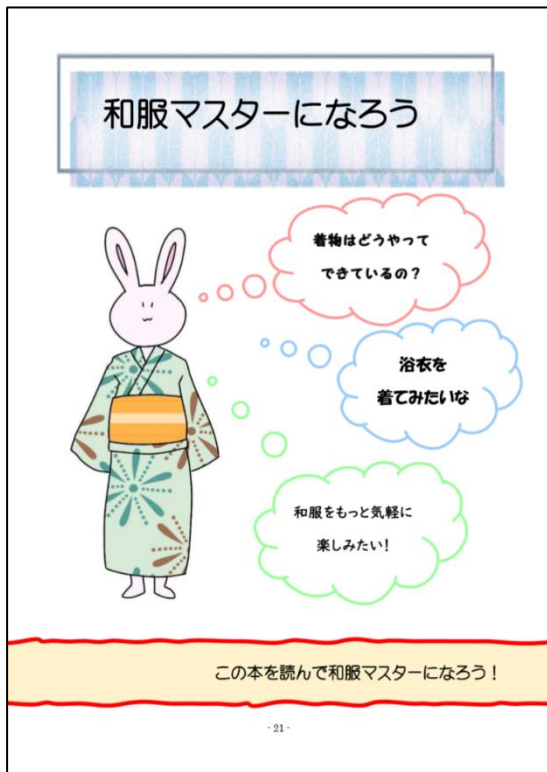
本小冊子は、小学校5、6年生の児童が、和服に興味・関心を持つ導入段階から、体験的に学ぶ授業において活用できるように、さらに中学校段階の技術・家庭で学ぶ「日本の衣生活文化」「平面構成と立体構成」などの内容にも発展できるように、小中の連携を意図した内容構成となっている。

最初の「和服マスターになろう」では、児童に楽しく身近に和服について考えて契機になるよう、ウサギなどのマンガを活用している。「着物はどうやってできているの」「浴衣を着てみたいな」など、児童の視点で和服について触れる。

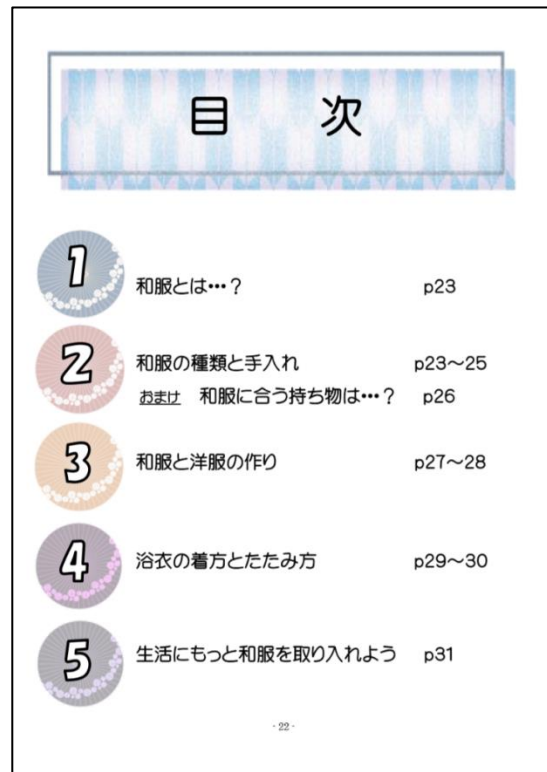
目次では、①和服とは、②和服の種類と手入れ、③和服と洋服のつくり、④浴衣の着方とたたみ方、⑤生活にもっと和服を取り入れよう、など和服の基本的な内容を楽しく伝えたり考えたりする構成となっている。授業の中で、クイズ形式で和服に関して調べる場合でも活用できるように、関連した基礎知識も記載するなどの工夫をしている。③和服と洋服のつくり」では、中学校段階で学ぶ「平面構成と立体構成」を分かり易くイラストを活用し、視覚的に違いに気づくことを意図している。④浴衣の着方とたたみ方もウサギのキャラクターが児童の視点で分かり易く着装手順を示している。本来の着付け手順を簡略化し、洋服の着装と異なるポイントのみを強調して示す内容となっている。着物のたたみ方も、自分の洋服とは片づけ方も違う方法があることに気づくように掲載している。たたみ方に関しては、小学校の家庭科では、住生活において整理・整頓について学び、衣類の管理(洋服のたたみ方)についても学ぶ。

上記の内容は中学校段階で学ぶが、資料2に示す大学生の和服(浴衣)の着装方法に間違いも見られる。

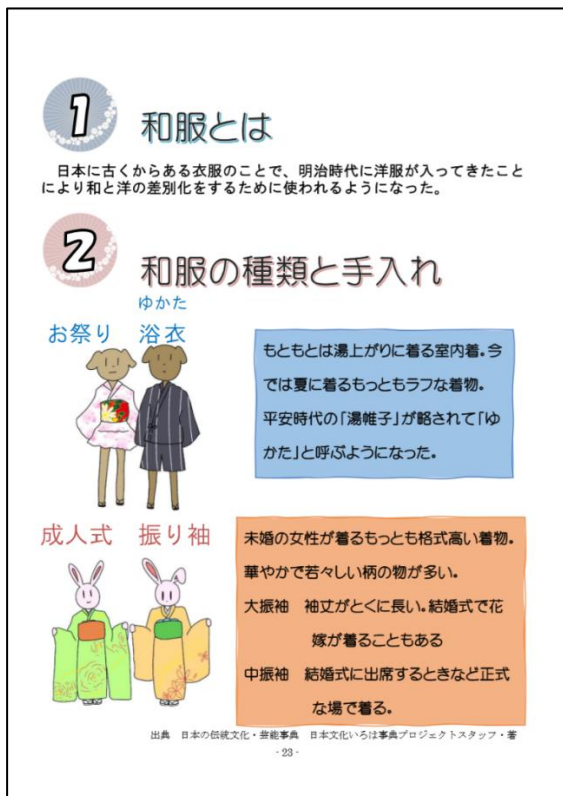
資料1 教材用冊子『和服マスターになろう』内容



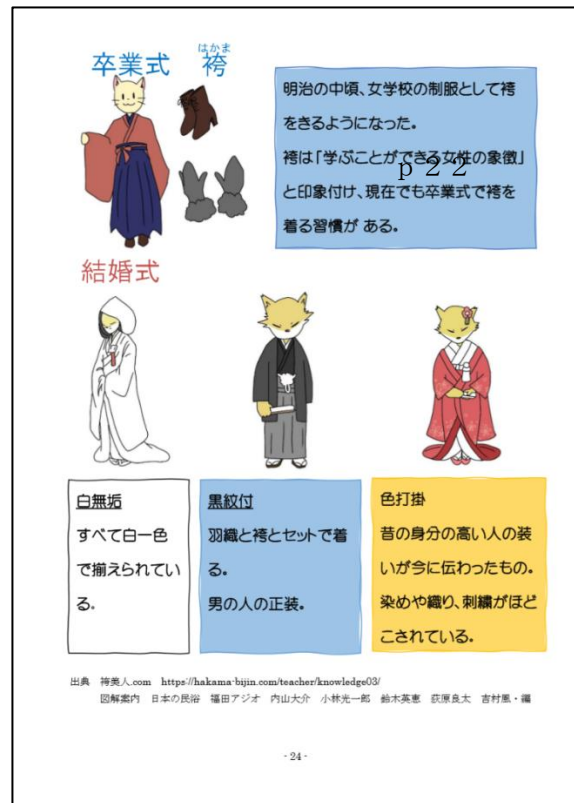
p21



p22



p23



p24

七五三 ^{ひな}被布



女の子は7歳から大人と同じような帯を締めるが3歳では帯を結ばなくてよい。
そこで、帯を結ぶ代わりに被布を着せて結び目を隠していた。

手入れ

着終わった着物はハンガーにかけ一晩おき、湿気を取る。
乾いたタオルを丸めほんぽんとほこりを払う。
もし、シミがあったら専門家へ。

はいた下駄はしぼった布でふき陰干し。

サイズを変えるために、腰上げや肩上げをする。

出典 photogenie <https://cele-baby.net/media/about/753-hifu/> /着物のえほん 高野紀子・作

p25

和服に合う持ち物は・・・?



- たび 足袋
- ふろしき 風呂敷
- せんす 扇子
- かつぼうぎ 割烹着
- 目印
- はおり 羽織
- わがさ 和傘

ほかにも何か知っているかな?

出典 着物のえほん 高野紀子・作

p26

3 和服と洋服の作り

和服

えり ← 裁つ (布を切ること)

かけえり、そで②、おくみ②、そで①、みごろ①、みごろ②、おくみ①

↑ 仕立てる (着物を作り上げること)

↑えり、↑そで、みごろ、おくみ、かけえり

そで①
そで②
みごろ①
みごろ②
おくみ①
えり
かけえり
おくみ②

出典 着物のえほん 高野紀子・作

p27

洋服

えり p26

うしろ、みごろ、まえ、みごろ、えり

うしろ、みごろ、まえ、みごろ

和服と洋服の作りの違いはなんだろう?

うしろ、まえ、ポケット

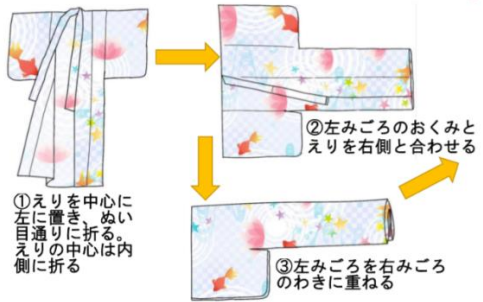
出典 Baby lock https://www.babylock.co.jp/gallery/bj_kihon02/ /Nunocoto fabric <https://book.nunocoto-fabric.com/603>

p28

4 浴衣の着方とたたみ方



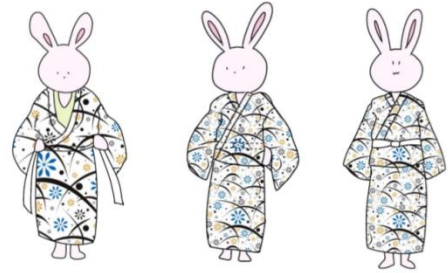
①肌着を着る ②背中のおい目を身体の中心に合わせる ③身体に合わせて巻き付ける



①えりを中心に左に置き、ぬい目通りに折る。えりの中心は内側に折る

②左みごろのおくみとえりを右側と合わせる

③左みごろを右みごろのわきに重ねる



④着丈を決め、腰のあたりを腰ひもでしばる ⑤腰ひもの上の余った部分をとのえる ⑥胸の下で一本目の腰ひもをしばる



④丈を2つ折りにする



⑤みごろをはさむようにそでを折り返す

男性は③の後、女性は⑥の後帯を締めてね

出典 着物のはき方、高野紀子・作 / きものまるわかり BOOK 第二巻 監修 新しい技術・家庭 着付け 佐藤文子 金子佳代子 はか63巻・春

p29

5 生活にもっと和服を取り入れよう



提案① コーディネートに取り入れる
着物を洋服と合わせる、和洋折衷コーディネート。
上着に羽織を用いたり、スポンの代わりに袴をはいたり組み合わせはいろいろ！



提案② 手作り染め物ハンカチ
藍染めキットが売られていたり、野菜の皮を使った染め方が紹介されていたりする。
絞りや工夫して自分だけの模様を身につけよう！



提案③ 和柄の持ち物を選ぼう！
和服で特徴的なのは作りだけではなく、模様もその1つ！
ポーチや筆箱、ファイルにも模様があるだけで華やかで日本らしさが感じられそう！

おまけ

和風柄の紹介



やがすり 矢筈



あさひ 麻の葉



しっぽう 七宝

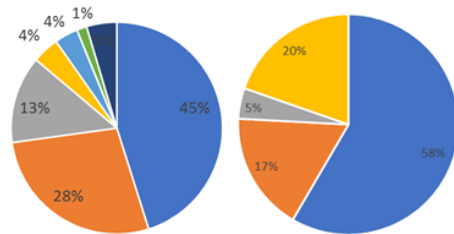


さしがた 紗綾形

出典 PATTERN <http://www.pattern-sozai.website/data/和風パターン柄の名前>

p30

資料2 大学生の和服着用経験と知識 (178名)



浴衣 45% 上前 58%・下前等 17%・不明 20%



上前描画



下前描画

p31 作成：「和服マスターになろう」 坂井 郁心

(3) 冊子を活用した授業実践事例 I (資料3)

過程	ねらい	学習活動	指導・援助
<p>導入⑤</p> <p>展開</p> <p>活動体験⑬</p> <p>課題追究・深める⑮</p> <p>まとめ⑩</p>	<p>○普段の生活を振り返り日本の伝統衣装を考えることができる。</p> <p>○着る活動をとって、伝統衣装に親しみを持つとともに、難しい・着づらいというイメージを減らす。</p> <p>○洋服と和服を比較することを通して、それぞれのよさや特徴を生活経験も含め考えることができる。</p> <p>○感想を交流することで着ていなかった人にも考えやすいようにする。</p>	<p>1. 和服について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和服を見たことあるか。何を見たことあるか。 ・浴衣を見たことがあるか。 ・1人で着られそうか、浴衣を着た場面を思い出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">和服のひみつを見つけよう</div> <p>2. 実際に着てみよう。(グループで1人に着付けをする)</p> <p>○自由に着方を考える。</p> <p>○浴衣の着付けを見て、襟の合わせ方など修正して、正しい着物を着方を知る。着付けの方法を参考にしてグループで着つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1. 動き易く薄手の服を下に着用する。</p> <p>2. 身体に合わせて浴衣を着る。</p> <p>3. 胸の下で紐を結ぶ。</p> </div> <p>3. 和服と洋服の違い</p> <p>○着た感想を共有し、和服と洋服の特徴を、見た目・着方・着心地・気持ちに分類し良さを考える。</p> <p>○全体で意見の交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別感がある。(和)・華やか。(和) ・1人で着ることができない。(和)・苦しい。(和) ・簡単に着ることができる。(洋)・楽に過ごせる。(洋)・ ・和服では運動ができない・和服は動きづらい <p>4. 何故、和服型の服を着るスポーツがあるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道・剣道・弓道などの競技のスライド(実物衣服) ・日本の文化と結びついた衣服 <p>5. 振り返り</p> <p>○ワークシートで、個人振り返り。</p> <p>○振り返りの交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和服は着るのが大変だけど、可愛いから今後着てみたい。 ・夏祭りには、浴衣が似合うと思う。 ・大人になったら着てみたい。 ・日本の伝統的な衣服をもっと知りたい、見たい。 <p>家庭： 冬休み お正月にいろいろな和服を見てみよう</p>	<p>○スライド写真 今までの伝統衣装と関わった体験を個人で振り返るために、スライド写真を提示する。</p> <p>※資料4</p> <p>○浴衣を着た上に、帯を巻くことを確認する。</p> <p>○感想をワークシートに記入する。</p> <p>○冊子も見ながら、場面と着る服装の違い、作りの違いを考えられるようにする。</p> <p>○スライド写真 和服の問題点</p> <p>※資料5・6</p> <p>○スライド写真 柔道・剣道・弓道などの競技の様子</p> <p>※資料7</p>

資料3は、考案した冊子を活用した授業実践の1事例を示したものである。授業の流れは、導入段階で資料4に示す和服を着用した写真を参考にし、どのような場面かをクイズ形式で考える。この写真のねらいは「和服」とは何かを視覚的に伝えるとともに、各自の生活経験の中での和服の着用経験を引き出すことを意図している。各自が和服を着たことがあるかについては個別に学習プリント(資料8)に記述する。

資料4. 導入：「和服を着用している場面」



資料5. 展開：「和服を工夫して運動」³⁾



資料6. 展開：「昔も動き易い服を考案」



資料7. 展開：「和服型を着用するスポーツ」



資料8. 学習プリント (小学生 記入事例)

課題 和服のひみつを見つけよう。

■ 身の回りで和服を見たことがあるかな。

■ ゆかたを観察し、着用し、ゆかたのひみつを見つけよう。自分の考えを書いてみよう

見た目・形・色	着方・着る方法	着心地・気分	動きやすさ	()	()
ふつふつの服よりかは、はたは、	着るのに10分おしゃべりになるから大変、着がたい。	おしゃべりになるから大変、着がたい。	長さが足ぎりぎりだから動きにくい。		
○黒板の発表・意見も書いてみよう					

■ 振り返り 「ゆかたのひみつ」見つけたことをまとめてみよう。

着るのは大変だけれども、日本の伝統だから、スポーツや祭りに、今も受け継がれている。

■ 発展：身のまわりの和服を探してみよう。

課題 和服のひみつを見つけよう。

■ 身の回りで和服を見たことがあるかな。

夏祭りのゆかた、成人式の和服

■ ゆかたを観察し、着用し、ゆかたのひみつを見つけよう。自分の考えを書いてみよう

見た目・形・色	着方・着る方法	着心地・気分	動きやすさ	()	()
洋服にはない見たゆわい形	少し難しい	苦しい	悪い		
○黒板の発表・意見も書いてみよう					

■ 振り返り 「ゆかたのひみつ」見つけたことをまとめてみよう。

洋服の方が、せたいに著やすいけれど日本の伝統だから、成人式や昔からある伝統行事に着られている。

■ 発展：身のまわりの和服を探してみよう。

資料9. 着用体験で用いた和服の種類



女子用の浴衣 各班1枚×8班



男子用の浴衣 各班1枚×8班



男子用の甚平 各班1枚×8班



寝間着（病院で入院用に販売）各班1枚×8班

展開の段階で、資料9に示す着用体験に用いる和服を配布する。具体的には、各班に男性用・女性用の浴衣及び甚平、現在でも病院等でも販売される寝間着などの4種（4種類×8班分）を配布し、グループ内で相談して着用体験をする。最初の5分は、各班で相談しながら自由に着装する。冊子も配布するので、冊子を参考にしながら着装することも可能である。各班がそれぞれの和服を着た後に、教師が浴衣を着つけた人体を見せ、浴衣の着方のルール探しを行う。「襟の重ねる方向が決まっている」こと等、日常着用している洋服との相違点に気付くように工夫する。「洋服は男子と女子の前合わせが違うが、着物の合わせ方は同じ」等、和服と洋服との違いに気付く。また女子の浴衣はおはしりがあることなどに気付く。

正しい着方は、教師が着装手順を示範し、冊子も参考にしながら各班で協力して着付けを行う。帯は教員が各班を机間巡視しながら着装を支援する。

着装が終了した班から、学習プリントを参考に「和服のひみつ」について、洋服と比較しながら意見交流を行う。

意見交流をする場合の話し合いの観点を明確にするため、和服の「見た目・形・色」「着方・着る方法」「着心地・気分」「動き易さ」等の項目について、各班の意見をカードに記入する。黒板には、学習プリントと同様形式の表を準備し、表の中に貼りつける。各班でカードの記入枚数は自由とする。この活動において、話し合いや考える中で教材冊子をどのように活用するかを観察する。黒板に各班のカードを張り終わった段階で、全体交流を行い、和服の特徴についてさらに考えを深める。

全体交流では「動き易さ」等の動作に関しては、「動きづらい」「和服では動けない」等の意見が多数であることが予想されたので、考えを深めることを意図して、資料5を示し「昔の人々が和服に工夫して体操」したり、資料6「和服は動きにくいので動き易い服を考案」した写真も紹介する。最後に資料7写真「動きにくい和服だが柔道や剣道、弓道などで今日も着られるのは何故」について考えを深める。着装体験から和服型よりもフィットしたスポーツウェアを着用した方が運動効率が良いのではと問いかけ、検討する。

(4) 授業実践の結果について

資料10. 児童の学習プリントの記載事例 (抜粋)

和服を見た経験	浴衣の着用体験の感想				振り返り 「ゆかた」のひみつ
	外観(形・色)	着方	着心地	動き易さ	
夏祭り・成人式	洋服にない形 普通より派手	難しい 10分必要で難しい	苦しい おしゃれ	悪い 動きにくい	洋服の方が着易い。日本の伝統だから成人式等に着られている 着るのは大変だが日本の伝統でスポーツにも受け継がれている
夏祭り・七五三 ある	きれい きれい・可愛い	複雑な形 集中して着る	涼しい ぶかぶか	動きにくい 動きづらい	着るのに時間かかり動きにくいのが日本の歴史がつまっている 和服は知っていたが、この単元で改めて和服を知れた
夏祭り・お正月	きれい・可愛い 派手	分かりにく着方 紐が2回で難しい	夏は良い 寒そう	動きにくい 動きにくい	和服は動きにくく着方が分かりにくく寒い。昔の経験で今の服がある 着るのが面倒で動きにくい。伸びない。が日本らしい服で伝統的。 着に複雑だが可愛い。剣道や弓道で続いているのは昔からの行事。
七五三	可愛い	めんどくさい	きつい	座りにくい	動きにくく時間がかかるが、空手などには着られている。
夏祭り・七五三	可愛い おはしよりある きれい	着るのが大変 めんどくさい大変	きつい	座りにくい	和服は日本の文化を大切に外国に伝える。 和服は日本の文化がつまっている。
	左が上ときまり ざらざら	めんどくさい	苦しい きっちりする	動きにくい 動きにくい	薄いから夏には最適だが着にくい。日本らしい服だから残したい。 動きにくいのが気持ちはずっきりした。剣道は日本の文化だから着る。 歴史があるのを知った。
▲ 資料2	▲ 浴衣の着体験			▲ 資料3・4	▲ 資料5

▲各資料スライドの提示箇所

(以下の記載事例は略)

※教材冊子は授業開始時に配布し、自由に各自が見て活用できるようにする。

資料10は、児童が記入した学習プリントの一部の記入事例を示したものである。具体的な構成は、学習プリントの形式に対応して「和服を見た経験」「浴衣の着用体験の感想」「振り返り」の記入内容を示す。

資料10からは、全体的に共通した傾向が見られ、「和服を見た経験・着た経験」については、スライドの写真を見ることにより、各自の経験や見た様子などを話し記入する様子が見られた。「和服」のイメージを具体的な場面で示すことにより、児童の経験が引き出される傾向が見られる。

浴衣の着用体験では、教材冊子の着方のイラストを参考にして着付けを手伝う様子が見られたが、イラストのみでは理解することが難しい様子が見られ、教師の示範や既に着ることができたグループに支援を求める様子も見られ、冊子で解説する難しさが見られた。資料10の「着方」に記載されるように「着るのが大変」「めんどくさい」が記載事例以外にも多くみられた。着装手順では、平面の資料とVTRとの併用等を活用する必要など工夫の必要が考えられる。

「着心地」に関しては、記載事例以外に全体的に「苦しい」等の圧迫の体感を示す内容と「夏には涼しい」等、季節に合わせた浴衣の活用に気付く意見もみられた。

「動き易さ」に関しては、全体的に「動きにくい」「座りにくい」(着装が終了した班から浴衣のまま座った為、座りづらいとの意見が出たものと思われる)が多くみられ、洋服の生活が日常である児童にとっては活動には適さない衣服として意見が一致した。浴衣では動けないという考え方で一致した中で、授業構成で述べたように、資料5、6の写真を見て「昔、和服を着ていた人々はどうしていたのだろう」と意見交流を行い、写真から動きづらい和服を工夫して運動をしていたことに気付く。「昔の人も和服では運動しづらかった」「和服を改良して動き易くする工夫もしていた」などに気付く。

資料7写真を示し「現代のオリンピック競技である柔道などは、何故動き易いスポーツウエアではなく和服型の衣服を着るのか。空手や弓道、剣道も和服型を着るね」の問いかけに対し、「日本の伝統的なスポーツだから日本文化の服を着る」との反応が見られた。資料10に示す「振り返り」のまとめにおいても、「和服は着るのが大変だが日本の伝統でスポーツにも受け継がれている」「動きにくいのが気持ちはずっきりとする。剣道は日本の文化だから着る」等、日本文化に結び付けて考える意見が全体交流から生まれた。

4. まとめ ー教材冊子の課題と修正ー

本教材の目的は、小学校から中学校へ系統性を持って発展させるために、新指導要領で扱われる「生活文化の継承・創造」に関し、衣生活文化に関しても浴衣の着用体験を通して基本的な内容に興味・関心を持った上で、中学校の課題に発展できることをねらいとしていた。

小学校段階では、夏の涼しい着方において日本の浴衣を紹介することも可能とされていたが、伝統的な衣服＝浴衣と発想するのではなく、浴衣を実際に着用することにより、和服の持つ形態的な特徴や問題点に気付くことをねらいとした。小学校段階では、和服と日本文化を結び付けて考えることが課題ではない。しかし、授業実践で見られた一連の思考過程である、着体験から⇒着方が難しい⇒和服は動けない⇒昔の人も和服を工夫して運動していた⇒和服型を着用するオリンピック競技柔道の写真を見る⇒スポーツウェアより動きにくい日本の伝統的なスポーツだから着るとする発想が、児童の意見交流から生まれたことから、小学校段階においても衣生活文化についての考えを深めることができる可能性がある。

本教材冊子はアクティブラーニングにおいて考えを深めたり、視野を広げたりするのに活用する資料の作成を目的としているため、今回の授業実践報告と教材冊子の教育的効用の分析（別稿）を踏まえ、教材冊子の修正を試みる。

授業実践をもとに明らかになった教材冊子の主な効果や課題、修正点は以下の項目である。

1) 和服の形態の特徴を多面的にとらえられる工夫と活用

和服（浴衣）の形がどのように洋服と異なるのか、児童に分かり易いように、各パーツで比較する。これにより、洋服の筒袖が閉鎖型であるのに対し、和服の袖には開口部があることに気付く契機となる。「浴衣は夏に涼しい」と記述した児童の多くは材質から考え、形態の特徴を捉えた考えではない。このことから形態の特徴に着目できるように、襟部分、身頃部分、衣服の留め方などポイントを示して比較する。

2) 着装方法のポイントを視覚的に分かり易く示す工夫

教材冊子をもとに、着装方法に興味を持たせたり伝えるには、より明確にポイントを示す工夫が必要であることが授業実践から明らかになった。着付けの経過で、冊子を広げて確認するグループや個人の児童はいたが、平面の着装手順は、自分の着装状態とは対面になる為、理解が難しく考えるよりも教師の支援を求めて解決することとなった。動画の組み込みを試行するなど、だれでもが理解し易い方策を考案する。

3) 日本の伝統文化と衣服との関係に気付く方法

本授業で用いたパワーポイントの写真は、考えを深める上で有効に活用することができた。本来のねらいでは、教材冊子は和服の基本的な内容のみにとどめ、考えを追究する場面では児童の様子を見て資料を提示する方法を用いたが、資料3～5に示す写真資料を見ることにより、効果的に考えを追究することができた。写真の上に「問いかけ」を記述して、教材冊子の後半に【考えてみよう】など発展課題のような形式で掲載することも有効であると考えている。

4) 主体的に考え、深める工夫

本教材冊子は、アクティブラーニングにおいて考えを深めたり、視野を広げたりするのに活用する資料の作成を目的としている旨を上述したが、考えを積み上げることができるような段階を示す工夫をする必要があると考える。

上記の内容を踏まえ、小学校段階における衣生活文化に関する興味・関心を育てる教材冊子の考案を継続的に試みるとともに、教材冊子活用の可能性についても検討していきたい。

註釈

- 1) 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 9頁～13頁、2017.
- 2) 長澤由喜子・木村美智子・鈴木真由子・永田晴子・中村恵子著『早わかり&実践 新学習指導要領解説 小学校 家庭』開隆堂出版、74～75頁、2017.
- 3) 中山千代著『日本婦人洋装史』吉川弘文館、挿図179、挿図目次93頁、1987.